

決算書分析結果を格付化！財務内容を瞬時に評価します！

Q. RM財務格付とは？

A. リスクモンスター独自の財務分析基準と想定倒産確率に基づいた定量分析のための指標です。

○ORM格付＝定量分析＋定性分析

定量情報のみでなく、業界情報、取引先情報、信用不安情報などの定性情報を加えて、企業の**総合的な信用力**を**6段階**で表した格付。

○ORM財務格付＝定量分析に特化

RM格付を構成している要素のうち、**定量情報**のみに**特化**して分析を行った格付。弊社独自の倒産企業データに基づき想定倒産確率を算出し、確率毎に**I～IVまで4段階**の格付を付与。

RM格付とRM財務格付の相関表

	I		II		III		IV		計	
A	28,144	79.3%	4,909	13.8%	981	2.8%	1,464	4.1%	35,498	100.0%
B	23,823	61.6%	8,253	21.3%	3,485	9.0%	3,123	8.1%	38,684	100.0%
C	18,048	34.3%	15,839	30.1%	11,183	21.3%	7,555	14.4%	52,625	100.0%
D	15,082	19.0%	27,621	34.8%	23,859	30.1%	12,834	16.2%	79,396	100.0%
E	6,557	8.3%	20,442	25.9%	24,849	31.5%	26,955	34.2%	78,803	100.0%
F	3,110	1.6%	12,905	6.6%	29,300	15.0%	150,554	76.9%	195,869	100.0%
計	94,764	19.7%	89,969	18.7%	93,657	19.5%	202,485	42.1%	480,875	100.0%

- ① 部分は、財務格付とRM格付において、最も相関性が高い部分を示しています。財務格付が高いほど、RM格付も高くなる傾向にあることが分かります。
- ② 部分は、財務格付とRM格付において、相関性が低い部分を示しています。財務格付がⅢやⅣであるにもかかわらず、RM格付がA格である場合などは、優良な親会社を有している等といった定性要因によって信用力が見込まれていることが考えられます。逆に、財務格付がⅠやⅡであるにもかかわらず、RM格付がF格である場合などは、信用不安情報の入手等によって、信用力に懸念が生じていることが考えられます。

【RM財務格付ページ】

高号	〇〇商事株式会社	TSRコード	123456789	RMコード	987654321
----	----------	--------	-----------	-------	-----------



財務格付定義
 I 財務内容は良好です。
 II 財務内容は概ね良好です。
 III 財務内容にやや懸念があります。
 IV 財務内容に大きな懸念があります

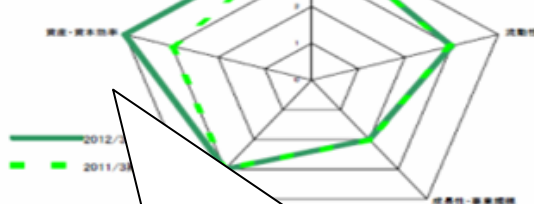
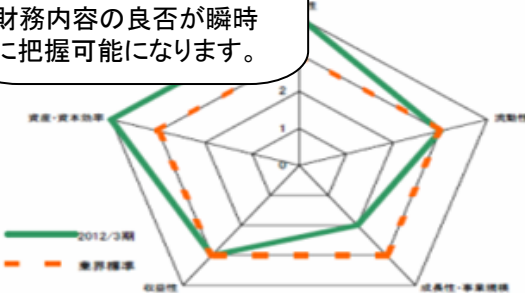
想定倒産確率
 I …0.1%
 II …0.5%
 III …1.0%
 IV …3.0%

【財務格付】
 想定倒産確率に応じて4段階で格付を付与。財務内容の良否が瞬時に把握可能になります。

財務格付履歴

2011/3期	2010/3期	2009/3期	2008/3期
I	I	I	I
2007/3期	2006/3期	2005/3期	2004/3期
I	I	II	II
2003/3期	2002/3期	2001/3期	2000/3期
II			

【財務格付履歴】
 過去の財務データに対しても格付を付与しました。格付の推移を履歴で閲覧することができます。



【レーダーチャート】
 財務バランスを代表的な財務分析の要素を用いてグラフ化しました。業界標準や過去決算との比較により、財務バランスの良否を視覚的に判断できます。

安全性	2012/3期	☆	☆	☆	☆
	2011/3期	☆	☆	☆	☆
	自己資本比率	★	★	★	★
	実質自己資本比率	★	★	★	★
	借入金利率	★	★	★	★
	借入返済年数	★	★	★	★

収益性	2012/3期	☆	☆
	2011/3期	☆	☆
	売上高経常利益率	★	★
	経常収支比率	★	★
	ROA(株主資本利益率)	★	★

資産・資本効率	2012/3期	☆	☆
	2011/3期	☆	☆
	売掛債権回転期間	★	★
	棚卸資産回転期間	★	★
	総資産回転率	★	★

財務格付を構成する代表的な判断要素(安全性、流動性、収益性、成長性・事業規模、資産・資本効率)に対して、4段階でランク付けしました。
 さらに各要素を構成する財務指標も表示しています。
 また、前期の結果も表示することで、比較により財務動向を確認することができます。

総合評価	財務状態
安全性	資金調達力が高い状態で、十分な安全性を有しています。
流動性	十分な流動性を有しており、短期的な決済力に懸念はありません。
収益性	収益効率が高く、事業収益での現金創出力を有しています。
成長性・事業規模	相応の事業規模を有し、継続的に成長しています。
資産・資本効率	資産の回転が高く、効率よく運用されています。

5つの判断要素(安全性、流動性、収益性、成長性・事業規模、資産・資本効率)における評価と総合評価に対して、コメントが表示されます。